

新温泉町 まち歩き案内所

松籟庵

しょうらいあん

ゆつくり のんびり  
時を忘れて・・・

松籟庵(しょうらいあん)の名前の由来

松籟(しょうらい)とは、松の梢(こずえ)に吹く風という意味があります。新温泉町の浜坂海岸には日本の白砂青松100選にも選ばれた浜坂県民サンビーチ「松の庭」があります。

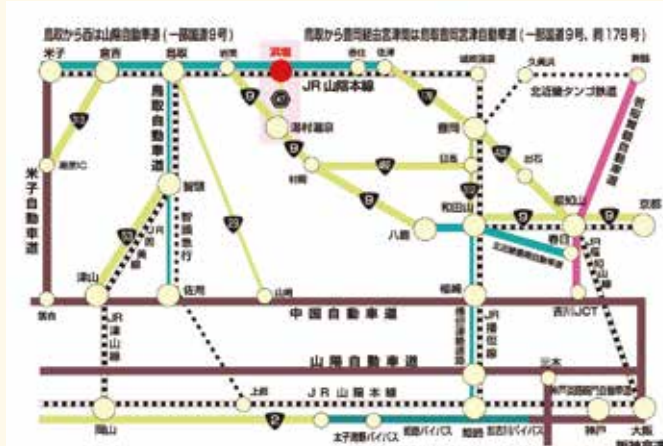
松の庭には日本海から吹き寄せる風が松の梢にあたり、さまざまな音を聞かせてくれます。

まち歩き案内所からまちづくりのさまざまな風を吹かせ、町を活性化させたいという願いを込めて名付けられました。

お客様を招く「招来(しょうらい)」、未来にかける「将来(しょうらい)」という言葉にもこれからのまちづくりの願いを込めています。



交通のご案内



【お車で】

大阪より 200km 約3時間  
京都・神戸より 180km 約3時間  
姫路より 130km 約2時間30分

【JRで(浜坂駅下車)】

大阪より 約3時間40分(特急利用)  
京都・神戸より 約3時間20分(特急利用)  
姫路より 約2時間30分(特急利用)



しょうらいあん  
まち歩き案内所 松籟庵

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂2351番地1  
TEL 0796-80-1126 FAX 0796-80-1166

開館時間/午前9時30分～午後5時30分

休館日/毎週水曜日(ただし、その日が祝日にあたるときは、その翌日)



大正3年頃の  
浜坂川下祭りの駅前風景

大正4年頃の  
浜坂針問屋の風景

鉄道の4灯式信号機

以前、山陰本線の区間に設置されていた物です。まち歩き案内所は鉄道と関わりが深く、この信号機を建物内に設置し、活用しています。



懐かしさに  
まらと歩けば  
タイムスリップ



1

### はまさかあじはらがわかいわい 浜坂味原川界隈

- ・味原川周辺の歴史文化
- ・浜坂まち歩き
- ・地域に残る鉄道遺産



2

### はまさか はまさかさんざん 浜坂まち・浜坂三山

- ・まち歩き、山歩き、トレッキング
- ・自然植物観察



3

### たじまほのうら 但馬御火浦

- ・自然観察と歴史、産業
- ・釣りの仕掛け方
- ・小舟(漁師の船)で河内窟めぐり



4

### たきみがわ 田君川バイカモ

- ・田君川バイカモ公園のバイカモ  
(バイカモの最盛期は5月中旬～6月中旬)



5

### いぐみちく 居組地区

- ・神社、寺の歴史と文化
- ・廻漕船史と漁港の近代化の歴史
- ・不動山(不動明王立像と植物群落)



6

### ゆむらおんせん 湯村温泉(荒湯)

- ・湯村温泉(荒湯)の歴史、文化の説明
- ・歴史、文化、温泉、まち歩き
- ・荒湯たまごの体験  
問 0796-92-2000



7

### うえやまこうげん 上山高原

- ・扇ノ山登山や上山高原周辺ハイキング
- ・霧ヶ浦トレッキングや滝めぐり
- ・明治の水路散策  
問 0796-99-4600

## まち歩き案内所は

浜坂駅前を中心とした新温泉町の賑わい創出のため、100年前に浜坂駅開業とあわせて建築された店舗を活用して整備しました。

駅利用者などへの観光案内を行うほか、地域コミュニティの活性化のための活動拠点となる施設です。また、こんな時はぜひお気軽にお入りください。



- ・列車やバスの待ち時間に
- ・知人との待ち合わせ場所に
- ・赤ちゃんの授乳や弁当を食べる時に



# 途中下車 まら歩きを歩けば…小さな発見!



### ガイド案内情報

新温泉町にお越しの際は、それぞれのエリアを説明するガイドが、みどころやグルメ情報のほか、山陰海岸ジオパークとの関連性などを案内しますので、ぜひご利用ください。

- ◇案内時間 ご相談に応じます。
- ◇ガイド料金 各エリア(グループ)によって異なります。

問い合わせ先 **1 ~ 5** は 新温泉町商工観光課  
TEL 0796-82-5625



**6 7** は直接お問い合わせください。

まちなか散策にご利用下さい

坂道も楽々です



レンタサイクル(電動)あります

**2時間 400円**



### ユーフォン1号

1911(明治44年)  
ニッポノフォン社(コロムビアの前身)

J小型ホーン内蔵型で、明治末期から全国の学校や寺院に普及しました。また、ラジオ放送が始まる前に童謡、唱歌を全国に広めるなど文明開化の立役者の役割を果たしました。値段は当時の価格で30円でした。宮沢賢治が愛用した蓄音機と同型のものでした。



新温泉町久斗山地区周辺にはタタラ跡がたくさん残っています。200年以上も前から針金を生産していました。この町の出身者である市原惣兵衛は、長崎で針金を応用した縫い針の生産技術を学び、これこそが郷里に適した産業だと考え、職人を2人連れて帰り、やがて縫い針は町の基幹産業として成長するに至りました。そして、縫い針の応用として製造された蓄音機の針。この町では「蓄針」と呼ばれ、さまざまな針が製造されました。今は、ダイヤモンドのレコード針も作っており、この製造技術は世界に数社しかないとも言われています。

### 本みすや針

江戸後期、全国的に有名であった京都みすや針は、本町で製造されたもので、商人によって京都へ運ばれていました。

### 蓄音機針

縫い針の生産技術を応用して蓄音機の針を生産し、「シエル」というブランド名でドイツなど世界40カ国に輸出を行っていました。

